

## デリケートな体質の男性

介護の仕事をしている40歳前後の男性。

ハードな仕事で腰痛を起こしたり、ストレスで胃腸の具合を悪くしたり。「デリケートなからだ」とは、ご本人の弁。

コーヒーをのむと、ドリップ仕立てのコーヒーは香りもいいし、とても美味しく感じる。

しかし、「5～6時間すれば、ムカムカしたり、胃が痛んだりするので、なるべくのまないようにしている」とか。

「コンビニ弁当が合わないのは分かっているが、1人暮らしなので、たまに食べると美味しく感じるものの、たいてい後で、体調が崩れてしまう」とも。

そのため、1人暮らしでは難しいとは思いつつも、デリケートな人が食べて大丈夫なもの、そうではないものとの話をしてあげることになっています。

私自身、似たような体質のため、合わないものが共通しており、指導もしやすいのです。

## 高齢者への切なる思い…

あるとき、腸内細菌フローラの話をしていて、便秘の話になりました。

すると、「勤めている介護施設の運営方針と思いますが」と前置きし、「相談したいことがあるのです」と話が続きます。

何でも、その施設では、100歳の入所者に対し、便秘をしたら大変だからと、複数の便秘薬を服用させ、3日に1回く

## 店頭から 「こんにちは」

第124回

「便通があればいい」というだけではない問題に遭遇  
トイレまでガマンできない事態に

おクスリへの反応は、人によって違い、私の場合、鎮痛剤によっては4分の1錠でも、鼻血が出ます。これが消化器の中での出血だったら、服用していれば、ひどい貧血を起こしていたかもしれません。

らい排便があるように調節しているとのこと。

嘱託医や看護師は、「便通があったから安心」といっているが、気持ちよい排便ではなく、ある日、何度も排便があり、トイレまで我慢できない状態になったとのことでした。

おクスリの種類や服用量を変更してもらおうよう、現状を、看護師や施設に、何度も訴えたものの、クレーム扱いされ、うっとうしがられているそうです。

利用者の中には、排便後、血圧が下がり、一時的に意識がなくなる人もいたともいいます。

「ご本人のためにも、何とかこの状況を変えてあげたいと思うのですが、私が間違っているのでしょうか？」

そう、男性は切々というのでした。

じっくり聴いていると、確かに入所者思いではありません。介護施設側の都合で対処しているのが、よく分かります。

介護現場の人手不足も問題になっていますが、高齢者がまだまだ増えていく状況にマッチした職場環境に、まずは行政のほうでも動いてもらいたい——。そう、痛感させられたのでした。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表  
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ  
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「体調が少しでも気になったら、ご相談を」

